



# YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「人類に奉仕するロータリー」 Rotary Serving Humanity

2016-17年度 RI会長／ジョン・ジャーム

RI.D2590ガバナー／高良 明

横浜旭RC会長／青木 邦弘

国際ロータリー第2590地区

## 横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2後藤ビル2F／〒241-0821

TEL.045-365-3273／FAX.045-365-3132

E-mail:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル  
(株岡田屋 3階会議室)

例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



旭区民まつりにて宮城復興米販売



第5回チャリティーコンサート



被災地の子ども達にクリスマスプレゼント

2016年7月20日 第2252回例会 VOL. 48 No. 3

■司 会 SAA 安藤 公一

■開会点鐘 会 長 青木 邦弘

■齊 唱 手に手つないで

SL 安藤 公一

### ■出席報告

会 員 数	31 名	本日の出席数	24 名
本日の出席率	96%	修正出席率	100%

### ■本日の欠席者

鈴木

### ■他クラブ出席者

青木、北澤（地区）

### ■皆出席者表彰



五十嵐 正会員 23年

新川 尚会員 13年

### ■会長報告

私の知る限りでは、ロータリーには「できない」と「できる」との葛藤で、「できない」

が永遠の勝利を収めたことはいちどもありません。広大なビジョン、崇高な目的は必ず勝利を収めます。ポール・ハリスの一言です。

#### 1) 地区から

昨日クラブ戦略委員長会議がメモワールプラザソシア 21 (15～17時) で開催され、幹事と行ってまいりました。詳細は幹事にお任せしまして、アトランタで行われる次年度のRI総会に、日本から3,000人を！とのことです。財団100周年なので、財団委員長は是非とも参加下さい。と露木バスターガバナーが言っておられました。

### ■幹事報告 北澤 正浩

7月19日(火)に青木会長と「クラブ戦略計画委員長会議」に出席してまいりました。講演を聞き、クラブのビジョンと戦略について、グループ討議を行いました。

### ■前年度幹事より 市川 慎二

活動報告書の提出をお願い致します。

### ■親睦委員会 田川 富男

○歓送迎会・慰労会開催のお知らせ

日時 7月27日(水)午後6時より

場所 二俣川 やき鳥 い志井にて

会費 5,000円

新会員のこれからの活躍と親睦を図るため、会員皆様の参加をお願い致します。又、前役員の一年度の労をねぎらい、今後も益々活躍

を期待しての慰労会も同時開催です。

## ■親睦委員会情報集会開催について

田川 富男

第1回目の情報集会の開催をお願い致します。下記の内容で、8月3日の第1例会（会員増強フォーラム）に向けての討議をお願い致します。今月中の開催を計画し、会員相互の親睦も兼ねておりますので、全メンバー参加にて実施し、8/3に発表して下さい。

○テーマ

### ①増強

7・8・9月増強キャンペーン推進と目標

### ②例会の時間、会費について

○班メンバー（会員敬称略）

- 1) 関口班 / 今野 後藤 田川 北澤  
岡田 大川 安藤（達）
- 2) 佐藤（利）班 / 太田（勝） 内田 倉本  
市川 矢田 吉原 兵藤
- 3) 安藤（公）班 / 五十嵐 齋藤 福村  
二宮（麻） 増田 吉野
- 4) 鈴木班 / 新川 佐藤（真） 二宮（登）  
滝澤 本山 太田（幸）

## ■雑誌委員会

増田嘉一郎

○ロータリーの友7月号の紹介

経費節減のため、A4変型からA4型に変わった。

### 1) 横組み

・7頁

新年度であるので、ジョンF・ジャームRI会長のメッセージから始まる。新年度はポリオ撲滅が達成できる年と位置づけている。そして本年度RIのテーマである「人類に奉仕するロータリー」のために、会員増強と他の団体とのパートナーシップ、リーダーシップの継続性を訴えている。

・8頁

新会長の紹介記事である。77歳の新会長は、リーダーシップの3要素「常に紳士的」「誰にでも親身」「何でも達成」の典型のような人とのことであり、これまで「やればできる」の心意気で、指導者として多くのプログラムを達成してきた。

2013年には「変化の推進者」としてホワイトハウスで表彰されたアメリカの12人のロー

タリアンの一人である。彼は、ロータリーはあまりに長い間その素晴らしさを隠し続けてきたといい、ロータリーの活動をもっと多くの人に伝える必要があると語っている。また、ロータリーは柔軟性を取り入れ、家族を養っている30代のビジネスマンを迎え入れること、地域社会に変化をもたらすことを問うている。

・17頁

ロータリーのテーマ「人類に奉仕するロータリー」を解題している。ロータリアンが、ロータリーの目標である「奉仕」のために集い、ロータリーの伝統を承継し、大勢の努力の結集し、人類の奉仕に捧げることを求めている。

・28頁

ガバナーの横顔として、2590地区高良明ガバナーを紹介している。誠実で、事に当たって情熱を傾け、信念を貫き通す「知行合一」の持ち主とのことである。

・45頁

本年度ロータリー財団100周年を祝う行事のアイデアがでてきている。祝う、伝える、貢献する、募金するとのことである。

・48頁

RIの委員会委員の募集の記事がでてきている。希望者は是非ご覧いただきたい。

・50頁

熊本地震と東日本大震災の支援活動を紹介している。ご参考ということで。

・58頁

インターアクトクラブ終結として、横浜商科大学高校が載っている。

・59頁

左側真ん中から下の方、「併せて、9月号と3月号に折り込んでいた『例会一覧表』もやめさせていただきます」と記載されている。最近出席委員会では近辺ロータリークラブの例会日を印刷したものを配布していないが、これからは、その必要性が増すので、是非検討していただきたい。

### 2) 縦組み

・4頁

2500地区の第2分区IMの特別講演の要旨

を記載している。「地域医療の取り組み」と題して、中頓別町立歯科の杉澤宗一郎氏による講演である。老人ホームの利用者に対する口腔ケア、訪問歯科診療に取り組んだ経験談である。医学的診療のために精神活動を抑える薬を服用している患者は、薬の副作用により日常の活動度が低下し、ごはんを全く食べられなくなっているそうである。そのため「摂食嚥下（えんげ）」の機能的訓練に取り組むことが必要となるが、その訓練に携わった経験のある人は、町の中に1人もいない。地に足の着いた地域医療に貢献したいとは言うものの、人が1人でできることなどほんの少しという現実を思いしらされながらも、これからの取り組みへの決意を述べている。

・ 9 頁

友愛の広場である。6月号までは、各地へ元新聞記者と写真記者を派遣しての訪問記事がでており、私は「ロータリーの友」で1番面白い記事だと楽しみにしていたが、経費の都合で廃止されたようである。

・ 12 頁の下段

「入りて学び、出でて奉仕せよ」という言葉に関しての投稿がある。2014～15年度の国際協議会からは、本会議場の入り口の掲示がなくなったそうである。急遽この言葉のせている資料を探したが、見つからなかった。どこで聞いたのか分からなくなったが、例会に限らず、ロータリークラブ入会の意味を教えてください。私も大切にしたい。

・ 25 頁

ロータリーアットワークに、2590 地区のライラの記事がでている。

3) 気になったこと

気になったことがある。この「ロータリーの友」の中で、「奉仕」という言葉と「ボランティア」という言葉が混在している。「奉仕」は英語でいうと「サービス」であり、日本語で「サービス」というと、日常用語としては有償で安いとか、おまけをつけるという意味に使われている。多分英語でも「サービス・奉仕」は、有償・無償を問わずということであり、ボランティアは「無償」ということなのであろう。

英語版を確認してみたいものである。以上

■ニコニコ BOX(会員敬称略)

青木 邦弘／①岡田さん、例会場ありがとうございます。②五十嵐さん、今日は宜しくお願いします。

北澤 正浩／五十嵐さん、卓話たのしみにしております。

後藤 英則／①五十嵐さん、卓話楽し味です。②大橋巨泉さんも永六輔さんも亡くなってしまいましたね。

市川 慎二／①岡田さん、美味しいトマトジュースごちそう様でした。②兵藤先生、昨日は奥様に大変お世話になりました。③五十嵐さん、卓話楽しみにしています。

安藤 公一／①五十嵐さん、卓話宜しくお願いします。②瀬谷 RC との合同コンペを 9/1 (木) に横浜カントリーで開催する事になりました。私が幹事をしますので、宜しくお願いします。

吉原 則光／五十嵐さんの卓話拝聴したいと思います。よろしくお祈りします。

岡田 清七／毎日暑い日が続いております。久し振りに出席させていただきます。よろしくご指導下さい。

滝澤 亮／五十嵐さん、本日の卓話よろしくお祈り致します。

田川 富男／親睦いたしましょう。歓迎会、情報集会、この指とまれなど参加が親睦です。

大川 伸一／本日 2 回目です。前回全く歌えなかった歌を YouTube で探して練習したのですが、ロータリーソングはたくさんある事に気づきました。まずは「習うより慣れろ」でいきます。よろしくお祈りします。

新川 尚／皆出席ありがとうございます。

五十嵐 正／①皆出席を頂きまして有難うございます。②本日は卓話当番です。よろしくお祈りします。

兵藤 哲夫／大橋巨泉さんがお亡くなりになりました。82 歳でした。本当の意味で大人の遊び方を教えて下さった方でした。ご冥福をお祈りいたします。

二宮麻理子／五十嵐さん、本日は卓話よろしくお祈り致します。

## ■卓話「我がクラブの災害対策」

五十嵐 正



本日は青木会長の指示で「東日本震災支援」と云う大きなテーマを頂きました。また、先月には、同じく青木当時エレクトと市川幹事に囲まれ、地区の卓話バンクに登録される羽目になってしまいました。テーマは「我がクラブの災害対策」です。

他クラブでは、主にロータリーの友で紹介された、我がクラブの自然災害の取組の流れをご案内しようかと考えておりますが、本日は、新しい会員さんもいらっしゃるのので、これまで私が関わってきたクラブの災害に対する経緯と、そこから学んだこととお話できればと思います。後半は、先日の熊本地震の視察報告をしてみたいと思います。

私が、災害を意識したことの始まりは、1995年の阪神淡路大震災の時のこと、当時クラブ内では恐らく募金活動をいつものように進めておりまして、お一人幾ら以上といった表現で募金をしていたと思います。漫然と他に考えることもなく、募金をすれば事足りると思っていたと思います。そんな中、クラブ会員の兵藤さんはいち早く動き出し、また兵藤さんの社員さんもいち早く現地に赴き活動されておりました。社員さんたちは指示を待たずに、自ら行動に移し支援に駆け付けたそうです。その時の兵藤さんの言葉が残っております。それは、「社員たちが自ら躊躇なく行動に移したのは、日頃の俺の生き様を見ているからだ。」と言われました。思わずこのオヤジ「かつこいな」と素直に感じました。また、これがロータリーで云う処の I serve なんだと理解しました。

その後、2008年に第40代のクラブ会長を仰せつかり、日頃気にかかっていた事2つを

会長テーマとして掲げ、そのテーマを軸に、プログラム、委員構成に取り組みました。

その時の私の会長テーマを覚えている方はいらっしゃるでしょうか。一つは「働くということ」当時はニートという社会現象が表面化し、働く意味、生きる意味に戸惑いを感じている若者達が多くみられるようになり、プログラムでNPOの方や、大学の学生達から意見を伺いました。そして、2つめが「都市災害」でした。これは、私が会長の時に大震災に遭遇したら何ができるのか、いやどう動いたらいいのか、皆目見当がつかなかったため、それをテーマに掲げ、NPO法人や災害の専門家、そして、当時3クラブ合同の際には、新潟中越地震でロータリーの現地対策本部長の鈴木重彦さんをお招きし、講演をお願いしました。奇しくも、ロータリーの友の特集で旭の記事が掲載されましたが、同じ特集頁で鈴木さんの地区の取組も紹介されておりました。彼は、ガバナーになって居られました。

一年を通して災害をテーマに採りあげる中で、いくつかのキーワードに巡りあいました。ひとつには

「72時間」飲まず食わずの命の限界点と云うことです。「1に自助、2に共助、3に公助」72時間という時間帯、自治体も被災者で機能はしないと考えてよさそうです。72時間、3日間の間は、自己責任で身を守る。家族を守ると云うことです。2の共助、これは隣近所の助け合いという事です。阪神淡路では、生き埋めの人を救出したのは、80%が近所の人だったそうです。3番目の公助、公の支援ですが、こと72時間に限っては当てにしない方が賢明のようです。「逃げる防災」から「闘う防災」へ、向う3軒両隣、ミニ防災組織の普及が言われる所以であります。

大災害においてロータリークラブは地域社会に対し何が出来るのか。ロータリークラブという組織に最もふさわしい支援活動とは何か。当時清水ガバナーに「地区としてどんな対策があるのか」伺った処、nothing。何もないとの一言。付け加えて「まず旭から手本を示してくれ」と切り替えされてしまいました。地区の組織の中に危機管理委員会というものがありますが、これは、青少年の関連

する委員会として、災害に対するものではありません。

会長当時、災害に関する卓話は5回行いました。ボランティアネットワークの吉岡さんの言葉『災害というのは非日常的な事、非日常に備えるには、日常の行動が大切である』という言葉が印象的でした。また、金沢のガールスカウトの子ども達と地域防災マップ作りから、小さな事の積み重ねから、災害から身を守る街づくりを目指しているというお話。その当時、旭のガールスカウトに話してみましたが、清掃活動を続けているので出来ないとの返事でした。今期青少年奉仕委員長なので、今一度ガールスカウトだけではなく、地域の子どもの組織に声掛けしてみるのもいいのかなと考えております。

その後、内田年度を経て、倉本年度の2011年3月11日の日を迎えるわけです。齋藤年度のクラブ協議会の席で、被災地視察の提案があがり、本日掲示ポスターの一番の2011年8月22日に被災地視察に繋がります。クラブからは11名、2手に分かれ、石巻チーム6名、岩沼チーム5名で行いました。岩沼RC訪問の際には、たまたま、盛岡北RCのバスター会長の田口さんの卓話を伺い感銘を受け、その席にいたIM実行委員長の今野さんが、素早く田口さんに講師依頼をしたと云うハプニングもありました。

その後、岩沼RCとの協力を得て、旭ふれあい区民まつりでのトマト麺や塩羊羹の販売。第1回チャリティーコンサートに結びつく流れとなります。2012年の2月には、関口G補佐IM実行委員長の今野さんの元「震災が問いかけるものは」をテーマにIMが行われ、岩沼RCから南館会長・渡辺幹事そして盛岡北RCの田口さんを講師としてお迎えしました。その12年の5月に、これからクラブを背負って立つ直前幹事の市川さんが入会されました。

12年の10月の区民まつりでは、トマト麺の販売に岩沼RCから大勢販売応援に駆け付けてくれ、12月には、矢田会員が岩沼に、幼稚園児のクリスマスプレゼント代として10万円送られ、以後毎年行われている、サンタのクリスマスプレゼントに繋がりました。矢田さんの好意に感服いたしました。

13年1月に第2回のチャリティーコンサートが行われ、同時に現幹事の北澤会員、7月には、鈴木・二宮麻理子会員の入会、いずれの方々もクラブの将来を担う方々が入会されました。

岩沼RCとは以来折々に行事を重ね、13年2月友好クラブ締結に至りました。その後、区民まつり、チャリティーコンサート、クリスマスプレゼントと回を重ね、一昨年、増田会長の元防災WGの委員長に指名され、私の会長当時やり残した実効性のある防災の取組みとして、岩沼と横浜旭のクラブtoクラブの災害時防災支援協定の実現、防災簡易マニュアル「てんでんこ」が誕生しました。このことは、全国のロータリーの情報が集まる友事務局の目に留まり、自然災害に取り組むクラブとして、特集の1番目に紹介された事を皆様に感謝いたします。このように我が横浜旭クラブは、見事に順序立て、クラブをあげて活動支援に当たっていると誇らしく思っております。今期は増田災害対策委員長の下、クラブ内連絡網整備、次にお話する熊本災害に繋げて行かれると思います。

次に、熊本災害について、増田委員長の指示の下、情報収集を行いました。

まず、2720地区のガバナー月信を閲覧し、曰く「現場のニーズは地震発生当時の人命救助、水、食糧の提供から、身体と心のケア、住まいの確保等へと刻々と変化していくものと考えます。皆様のご支援、ご協力を賜りますよう云々」となっておりました。

そこで、G事務所宛、現場の具体的状況をお知らせくださいとのメッセージを送りました。地区幹事の堀川さんが地区内全クラブに配信して下さり。熊本の宇土RCの前G補佐の作守順子様より以下のメールが届きましたのでご紹介します。

○RID2720地区 熊本第5グループ

宇土RC 作守 順子

地区では前年度G補佐、今年度、管理運営部門部門長、次年度、地区研修委員会副研修リーダーを仰せつかっております。

熊本地震に関しての情報提供をとの事でしたので私の分かる範囲で連絡させていただきます。

わたしの所属する宇土RCは、ニュースで一





写真上段より

地震により崩壊した宇土市役所、  
キャンピングカーに支えられた益城町の家、  
寸断された益城町の道路  
一階部分が崩壊して2階のみとなったアパート

番に行政の庁舎が倒壊寸前と画面をにぎわせた宇土市役所が地元です。

4月14日の前震後、災害対策本部と本庁と少し離れた宇土市市民体育館に設置しました。その後16日未明に本震に見回れ、庁舎が大き

く被災し倒壊寸前、立ち入り禁止となりました。前震の時は宇土市はさほどひどい被害は無く、まさかこの後14日の地震を上まわる地震が起こるなどとは想像すらできませんでした。誰もが、これから余震に気をつけていかなければ、とある程度気持ちが緩んでいたと思います。

16日のひどい揺れで庁舎の中はめちゃくちゃな状態の上、スプリンクラーが作動し、水浸しの状態だったとの事。中にある書類は愚かパソコンの一台も取り出せない状況の中市民の安全と、災害対策を進めていく事となりました。災害対策本部には、たったのパソコン2台、電話1台という状況でした。

当時はライフラインはかろうじてつながっていたものの、水が制限給水になり、大変な揺れのため指定の避難所は満杯状態でした。1週間もすれば何とか支援物資も行き届き、私たちが少しずつ動きを取り戻してきました。

クラブのメンバーも被災しておりましたが、被災状況が軽い者で、ロータリークラブとして、行政を応援せねば！！と行政に何かできる事はないか？と問い合わせ、とりあえずパソコン20台をすぐに手配し、支援しました。

今は、災害対策本部となっていた市民体育館と他2カ所で行政機能を動かしております。7月中には仮庁舎の完成、もうすぐ仮設住宅80戸も完成します。これからは、仮設住宅へ入居される方々への支援を行政と話してやっていく事となります。

また、被災した家庭の子どもへの教育支援など、中長期的な展望での支援を考えている所です。

被災状況が一番ひどかった益城に熊本りんどうRCがあります。創立10周年を今年迎えるクラブです。若手のメンバーが多く、自らも家が全壊し会社で家族全員寝泊まりしているなどの状況の中地域に入り、色々な支援をされています。宇土はわたしの方で地区以外にクラブ to クラブでの支援金をお願いしており、ご協力いただいている所です。

是非、熊本りんどうRCとコンタクトを取って、支援の手を差し伸べて頂ければ幸いです。

(中略) 文末に、地区の方にも沢山の義援金を送って頂き、全国のロータリアンの皆様に



写真上より

カーテンで仕切られた避難所の様子  
屋根瓦が崩壊した熊本城

心より感謝申し上げます。

この内容を受け、増田災害対策委員長と一度視察する必要があるのではと、珍しく意見の一致をみて、先方の熊本りんどう RC に打診してた処、是非いらして下さいとの連絡を受け、今回の益城町訪問につながりました。生憎当日増田委員長は体調不良の為急遽断念されましたが、直前会長の新川さんと行って参りました。

益城町の人口は3万人、世帯数1万世帯、内全壊1,200世帯、半壊3,200世帯。熊本りんどう RC の桂会長、住永会員よりご説明があり、

①現状1万人が避難。道路が確保され、解体資材の分別保管場所の場所が決まらず、やっと3日前より解体工事が始まった処。全部がかたづくのに2年半かかるそうです。廃材を運ぶレンタカー代が不足し、京都のクラブから地区補助金を利用した支援で賄っていたが、今は資金不足に困っている。

②5ヶ所ある避難所の内1箇所ボランティアの協力を得て焚き出しを週3回行っているが、出来れば増やして行きたい。避難所では、朝食と昼用に菓子パンとおにぎり、夜は弁当

の生活です。出来れば味噌汁を作ってあげたい。これも資金と物資不足。ただこれにも問題があり、被災していない人がただ飯を食べにくる。整理券で対応しているが。将来的には、貧困のこども食堂のようなものが考えられるのでは。

③災害で傷ついた子どもへの対応として、子どもの心のケアをしていきたい。情報とアドバイスが欲しい。

④家が崩壊し、通学に際し先生が付添っているが、先生の負担が大きく今はもう限界の状態です。何はよい方法はないか。等々。

ここで考えなくていけないことは、1つに全国のロータリアンからの義捐金がすぐには使えないそうです。2つ目には、被災地の情報の収集・整理・発信機能は被災地では出来ないという点があると思います。地元熊本りんどう RC の直面している課題は、先ほどの地区のガバナー月信からは伺い知ることは出来ない。本当の状況は現地に行ってみて初めて分かること。今後はガバナー会に地域連携の支援の仕組みを考えていただかないといけないのではないのでしょうか。当面は先の事は考えず、今出来る事として、りんどう RC から写真や記事を横浜にメールして頂き、こちらが編集代行し、りんどう RC から発信できるまでに仕上げ送ることを約束して参りました。クラブ to クラブ支援が今の処即効性のある一つの形のようなのです。



写真左より：熊本りんどう RC 桂会長、

宇土 RC 作守会員、新川会員

## ■次週の卓話

8/3 (水) 会員増強フォーラム

関口 友宏会員

週報担当 吉原 則光

平成28年度6月出席率一覧表

員数	会 員 名	ホームクラブ	他クラブ	出席率	員数	会 員 名	ホームクラブ	他クラブ	出席率		
1	秋 内 繁	100	0	100	21	佐 藤 真 吾	80	20	100		
2	安 藤 公 一	100	0	100	22	佐 藤 利 明	100	0	100		
3	安 藤 達 雄	－出席規定免除－			23	関 口 友 宏	100	0	100		
4	青 木 邦 弘	100	0	100	24	鈴 木 茂 之	80	20	100		
5	福 村 正	80	0	80	25	田 川 富 男	100	0	100		
6	後 藤 英 則	80	20	100	26	滝 澤 亮	100	0	100		
7	市 川 慎 二	100	0	100	27	内 田 敏	－出席規定免除－				
8	五十嵐 正	100	0	100	28	漆 原 恵利子	80	0	80		
9	北 澤 正 浩	100	0	100	29	矢 田 昭 一	－出席規定免除－				
10	今 野 丁 三	－出席規定免除－			30	吉 野 寧 訓	－出席規定免除－				
11	倉 本 宏 昭	－出席規定免除－			31	吉 原 則 光	－出席規定免除－				
12	増 田 嘉一郎	100	0	100	32						
13	本 山 雄 三	80	20	100	33						
14	新 川 尚	100	20	120	34						
15	二 宮 麻理子	80	20	100	35	高 梨 昌 芳	名 誉 会 員				
16	二 宮 登	100	0	100	36						
17	岡 田 清 七	－出席規定免除－			37						
18	太 田 勝 典	－出席規定免除－			38						
19	太 田 幸 治	－出席規定免除－			39						
20	齊 藤 善 孝	60	40	100	40						
例 会 日		1日	8日		15日		22日		29日		平 均
例会出席率	$\frac{23}{26}$	88.46%	$\frac{23}{25}$	92%	$\frac{22}{24}$	91.67%	$\frac{24}{24}$	100%	$\frac{23}{25}$	92%	
修正出席率	$\frac{26}{26}$	100%	$\frac{25}{25}$	100%	$\frac{24}{24}$	100%	$\frac{24}{24}$	100%	$\frac{24}{25}$	96%	99.2%